

生き方 リサーチ

豊かだけど不安な中で――

世間では若者の「活字離れ」が取沙汰されているが、「遊べる本屋」をキャッチフレーズに全国展開している「ヴィレッジヴァンガード」では、いつでも若者たちが熱心に本を立ち読みしている姿に出会う。店内に入ると、幅広いジャンルの本や雑誌、雑貨や食品など所狭しと並べられており、宝探しのようなワクワク感がある。しかも陳列されている商品に脈絡がない。夏目漱石や谷崎潤一郎らの日本文学小説が鎮座している真横で、現地直輸入のボサノバやレゲエのCDが平積みになっていたりする。こんな「なんでもあり」の混沌こそが、若者をこの書店に向かわせる引力なのだろう。

また、街中で客足を引いている書店を見ても、ここでは、書籍だけでなくCDやDVDも販売していたり、カフェを併設していたり、作家やタレントのサイン会やトークショー等のイベントを開催している場合が多い。いまや書店は、単に本を購入する場所ではなく、「さまざまなモノ・コトに出会える」空間へと変わりつつあるようだ。

■ネット書店の普及

最近、本や雑誌をネットで購入する人も増えてきている。総務省の「平成17年版情

報通信白書」によれば、パソコンのインターネット利用者のうち、ネットショッピングの利用経験者は89・1%にも上る。そして購入した品目を見ると「書籍・雑誌」を挙げ

る人が最も多い(図表2)。確かに、お目当ての一冊の本にたどり着くために、時間や労力、交通費等のコストをかけて、何軒もの本屋を探し回っていた時代を振り返ると、自宅のパソコンから欲しい書籍を検索して注文し、自宅の玄関まで届けてもらえるネット書店は、大変効率的なシステムだ。ネット書店と現実の書店とを比較すると、そのような利便性・効率性の違いがま

ず挙げられる。だが今回は少し視点を変えて、「自分の予期せぬ出来事が起こるかどうか」という切り口から、ネットで購入する場合と書店で購入する場合の違いについて考えてみたい。

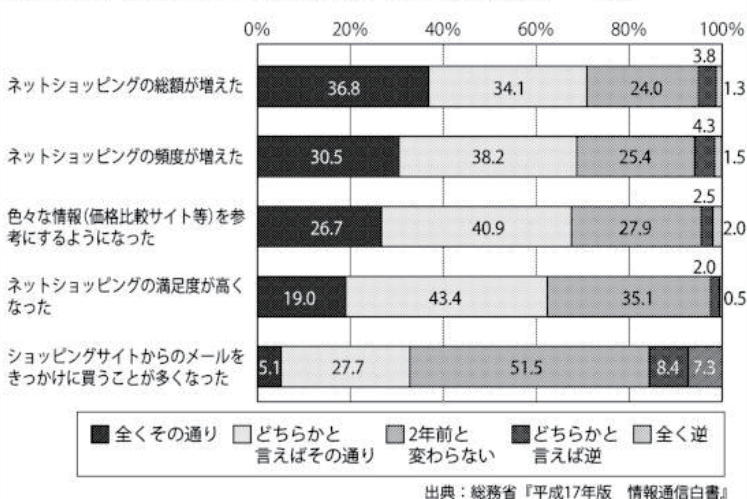
■ネットの世界に「想定外の出会い」はあるか

書店をブラブラ歩いていると、「絶対泣けます！」と書かれた店員の手作りポップが偶然目に止まって本を手にとってみたり、ちよ

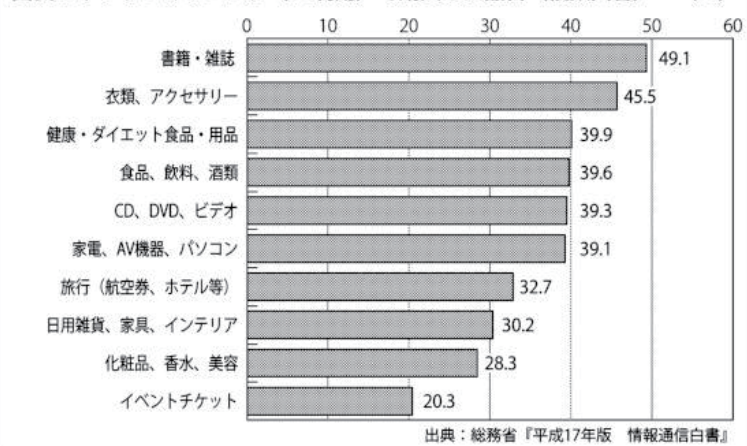
と、「絶対泣けます！」と書かれた店員の手作りポップが偶然目に止まって本を手にとってみたり、ちよ

偶然の発見は現場から

図表1. ネットショッピング利用の変化(2年前との比較) (%)



図表2. ネットショッピング(PC利用)で購入した品目(複数回答) (%)



言われてみれば、近年流行しているソーシャル・ネットワーキング・サービスも、多様なネットワークの中から「共通の趣味・嗜好を持つ」「マッチングできる」という相手を探索することを志向するものであるように見える。

このように人付き合いの変化と同様、個人がネット情報を集めたり、物を選んだりする際も、「自分の好きなモノだけ」「興味のあるコトだけ」にますます偏向していつまでも、どこでも、誰でも、何でも「できるネットの世界」は、オープンでリベラルな雰囲気を出しつつも、実際は、個人の興味・関心の幅を狭めていくベクトルを持っているのかもしれない。

と」がかなり起こりにくい世界であるといえる。

■好きなモノしか選ばない傾向

インターネットの普及によって、私たちは以前よりもたくさんのモノにアクセスできるようになった。だが、選べるモノが多様で大量になった結果、かえって個人は、より「自分の好きなモノだけ」を選択する傾向が顕著になっていく、という指摘がある。

中央大・松田美佐教授(コミュニケーション、メディア論)によれば、携帯電話の出現に伴い、最近の若者は、「友人(「携帯電話番号を教えた人」)の数は多くなってきた」という。しかし、その「多くの友人」の中で、実際に親しく付き合う相手としては、自分の好きな数名の友人のみを選ぶ傾向が強まってきている、と松田教授は主張する。

■「ムダ」の価値を再考する

若者の集まる「ヴィレッジヴァンガード」や、休日賑わう都内の大型書店の様子を眺めていると、あらかじめ心に決めた一冊を求めて来る人だけでなく、店内をグルグルと歩きながら買い物を楽しんでいる人も多く見受けられる。彼らが求めているのは、「自分の欲しいモノ」ではなく、「今まで見た事もないような面白いモノとの出会い」なのかもしれない。

ネットの世界と違って、現実世界にはたくさんの「ムダ」や不自由さや非効率があり、目的の地へ真っ直ぐたどり着けなかったり、思いがけない出来事が起こったりする。だからこそ人はそこで未知の発見をしたり、意外な気づきを得たりしながら、新しい世界を広げていくのではないか。ウェブの一発検索機能で自分の知りたいニュースをピンポイントで仕入れる人も増えているようだが、たまには雑誌や新聞のページをめくる中から、目新しく面白く記事を発見できるかもしれない。趣味の合わない友人に付き合われて入った洋服屋で何となく試着してみたコートが、思いのほか自分に似合ったといううれしい発見は、ネット通販では経験できない。

便利なネットを活用するのにも現代人ならではの賢さなら、ムダの中に潜む価値を信じ、ときにはパソコンを閉じてあえて外に出かけてみるのも一つの賢さではないだろうか。日々の生活の中でどれだけの偶然に出会えるか、その偶然をきっかけに、新しい世界にどれだけ目を広げていくことができるか。そこに「豊か」と呼べる生き方につながるヒントがあるような気がする。

(オムロン・ヒューマンルネット
サンス研究所 澤田美奈子)